

1. 科目コード

1290

2. 科目名

M42: ビジネスプロセス演習

3. 担当教員

二見 強史 (Tsuyoshi Futami)

4. 開講期

秋2期

5. 履修要件(前提科目)

「1299 ビジネスプロセス特論」を履修していることが望ましい。(ビジネスプロセス特論未履修でも履修可能ですが、未履修の学生に対する追加の講義は行いません。)この授業は、夜間のみの授業となります。

6. 科目の目的・概要

エンタープライズ(企業)の価値に貢献できる情報システムを考える科目です。学生からのリクエストや参考図書(できる限り最新のトピックス)から討議資料を紹介します。

7. 授業概要

- 1 オリエンテーション
- 2 簡単な指定課題のレポート提出と発表及び課題解決のための基礎理論の講義
- 3 同上(指定課題は全員同一課題、発表は全員が少なくとも1回以上)
- 4 同上
- 5 同上
- 6 同上
- 7 同上
- 8 同上
- 9 同上
- 10 同上
- 11 同上
- 12 同上
- 13 同上
- 14 同上
- 15 同上
- 16

8. 教科書

9. 参考書

事例から学ぶビジネスアナリシス,2013,IIBA日本支部
<http://www.iiba-japan.org/know-how/BAs.pdf> からダウンロード可能
参考:動かないコンピュータ(日経コンピュータに随時連載)

10. 科目の学習目標

- (1) 問題の原因の追究と解決へ知識体系を適用できる。
- (2) 答えの見えないところに回答を作り出すのに知識体系を利用できる。
- (3) 問題を発生させないようにすることに知識体系を応用できる。

- (4)
- (5)
- (6)
- (7)
- (8)

11. 本学の教育目標と科目の学習目標との対応

教育目標		学習目標	
高度ICT スキルの修得	基礎的素養		
	専門知識および業務応用力	(1),(2),(3)	
人間力 (=探究力) の修得	自ら強みを磨き続ける力	(1),(2),(3)	
	自ら社会における 課題を発見し、 解決する力	課題設定	(1),(2),(3)
		仮説立案	(1),(2),(3)
		仮説検証	(1),(2),(3)
		実行	(1),(2),(3)
	社会人基礎力	前に踏出す力	(1),(2),(3)
		考え抜く力	(1),(2),(3)
チームで働く力			
職業倫理の修得			

12. 評価方法と配点

学習目標	達成度評価方法と配点					
	期末試験	小テスト	レポート	発表	成果物	その他
(1)			○	○		
(2)			○	○		
(3)			○	○		
(4)						
(5)						
(6)						
(7)						
(8)						
配点			40	60		

13. 評価基準

期末試験	
小テスト	
レポート	時事問題、基礎教養に関するレポート
発表	発表時間(分)×1点を原則とするが、テキストを読むだけの冗長な発表の場合は減点することがある
成果物	
その他	

14. アクティブラーニング(A:行っている B:やや行っている C:行っていない)

授業時間全体に占めるアクティブラーニングの時間的な割合		60 %
1	授業で得られた知識や技能を活用し、出題された問題を解いたり、課題に取り組むなど能動的学習を行う	A
2	グループワークで課題に取り組み、学生同士が自由に発言することで何らかの課題に取り組むなど能動的学習を行う	A
3	能動的学習の成果を発表し、そのフィードバックを得て自ら主体的に振り返り、学習効果を高める	B
4	学生自身が主体となって、授業における学習の方向性を定める	A

15. 備考

討議テーマは、学生からのリクエストを優先します。
毎年必ず討議するテーマは、情報システムの企業価値への貢献です。

16. 授業計画

(注)授業計画は、あくまでも予定であり、実施時に、適時、追加・変更・修正等が生じる場合があります。

第1回 (オリエンテーション)

(講義と演習90分)

1. 授業の進め方
2. 社会科学の方法論(リサーチ・メソッド)
特に、事例研究の方法論について、
動かないコンピュータの事例研究方法
企業分析の事例研究方法

第2回～第14回 (学生による発表と前回レポート課題の講義)

(講義とグループ演習で90分)

参考(学生からのリクエストで実施した2021年度の討議内容)

- ・ビジネス分析に必要な経済学
- ・ビジネスアカウンティング(有価証券報告書の読み方)
- ・ビジネスファイナンス(株主企業価値とは、。。。)
- ・マーケティング2.0～5.0まで(IoTとAIによるマーケティングとは?)
- ・ESG会計(トリプル・ボトムラインとは、ステークホルダー・資本主義とは)
- ・情報システムの企業価値への貢献(この講義は必ず実施します)

第15回 (発表会)

(発表と講評で180分)

発表テーマは、ここ数年「いけない会社(時価総額の低い会社)を救え!」にしていますが、学生のリクエストを優先します。